

第3章

子育て支援





第1節 支援する人・機関・サービス

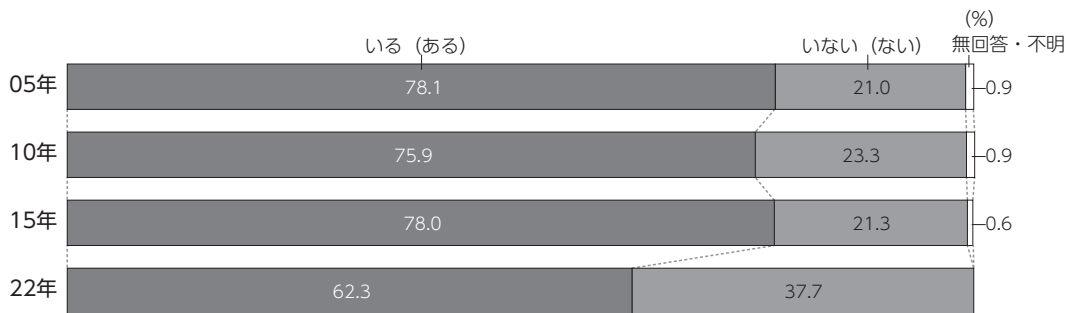
母親が家を空けるとき、子どもの面倒を見てくれる人がいる比率は大幅に減少するなか、「父親」のみ増加していた。低年齢児は「父親」に頼むが、高年齢の幼稚園児は「父親・母親の友人」「預かり保育」の利用が多い。

●母親が家を空けるとき、子どもの面倒を見てくれる人が「いる（ある）」比率は大幅に減少

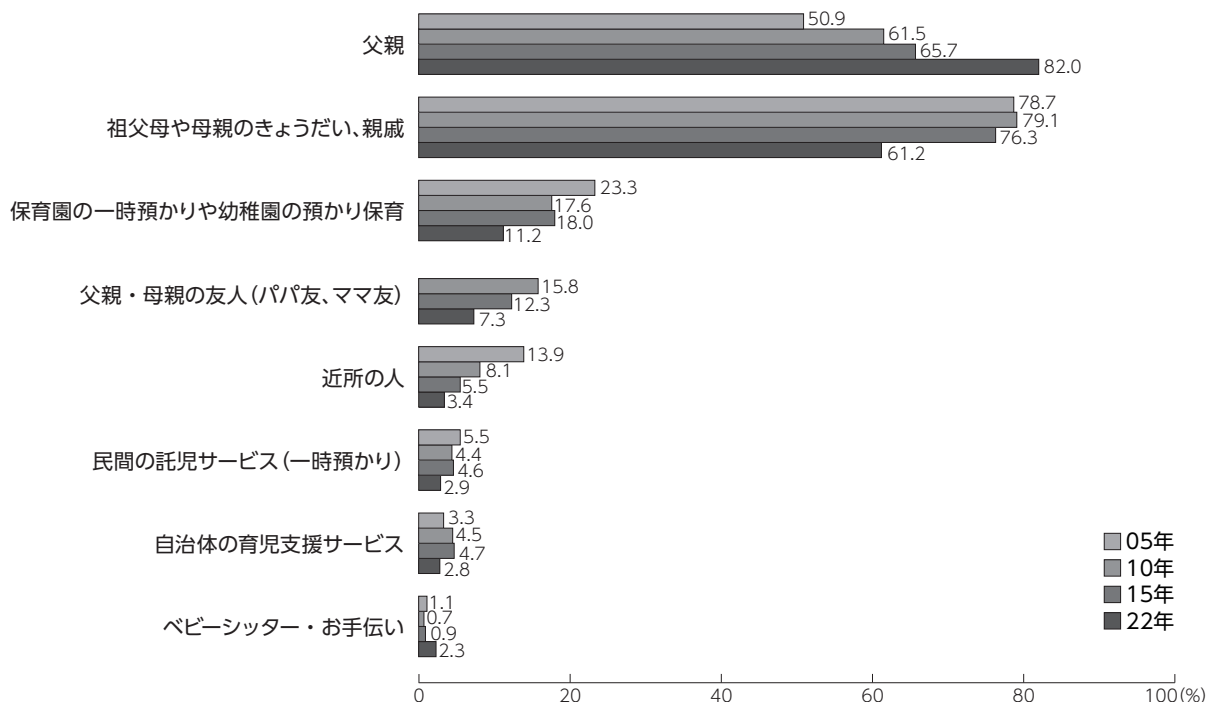
子育てを取り巻く環境は、どのように変化しているだ

ろうか。母親を対象に「あなたが家を空けるとき、子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）がいますか。通常、幼稚園・保育園にお子様を通わせている時間は除いてお答えください」とたずねた。図表3-1-1をみ

図表3-1-1 子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）の有無（経年比較）



図表3-1-2 面倒を見てくれる人（機関・サービス）（経年比較）



注1) 複数回答。
 注2) 子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と回答した人のみ回答。
 注3) 「父親・母親の友人（パパ友、ママ友）」は、10年調査以降の項目。
 注4) 10年調査までは「祖父母や親戚」→15年調査は「祖父母やあなたのきょうだい、親戚」と項目名を変更した。
 注5) () 内は人数。
 注6) 調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
 低年齢：1歳6か月～3歳11か月の幼児。
 高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。

ると、「いる(ある)」比率は、05年が78.1%、10年が75.9%、15年が78.0%、22年は62.3%だった。特に15年から22年の変化が著しかった。

●子どもの面倒を見てくれる人として「父親」が増加し、「祖父母や母親のきょうだい、親戚」が大幅に減少

「いる(ある)」と答えた人に、どのような人(機関・サービス)に子どもを預けているかについて、複数回答でたずねた。図表3-1-2が経年変化でみた結果である。22年をみると、「父親」が82.0%でもっとも高い比率であった。次いで、「祖父母や母親のきょうだい、親戚」が61.2%で、6割以上だった。続いて、「保育園の一時預かりや幼稚園の預かり保育」11.2%、「父親・母親の友人」7.3%であるが、上位2項目に比べると比率は低い。園以外で子どもを預けるとき、祖父母や母親のきょうだいや親族に預ける傾向がうかがえる。経年で比べると、「祖父母や母親のきょうだい、親戚」は、15年まではもっとも高かったが、22年で大幅に減少した。変化が大きかったのが「父親」である。「父親」は05年には50.9%

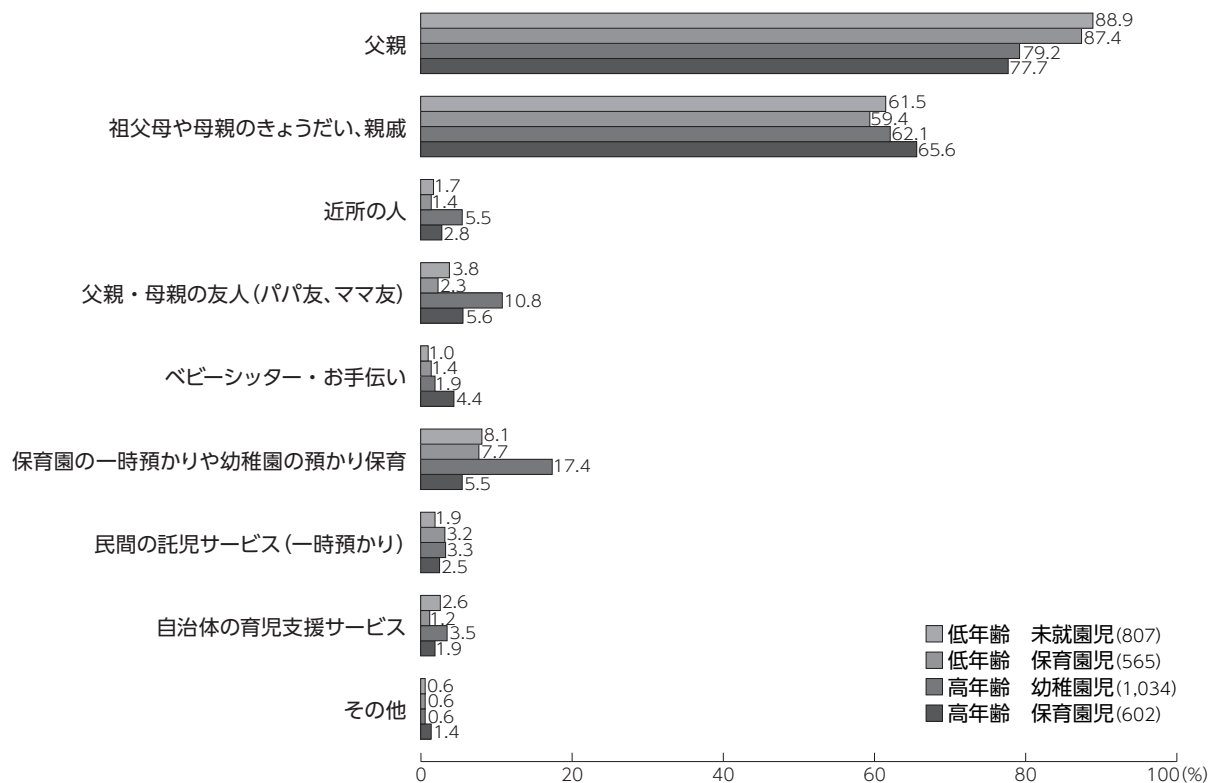
と約半数だったが、10年では61.5%、15年では65.7%、22年には82.0%と8割を超えた。面倒を見てくれる人・機関が全体的に減少するなか、「父親」と回答した比率は増えており、コロナ禍で核家族中心に子育てせざるを得なくなっている状況がうかがえる。

●低年齢児は「父親」の比率が高い。高年齢幼稚園児は、「父親・母親の友人」「預かり保育」の利用が多い

子どもの年齢区分別・就園状況別に「子どもの面倒を見てくれる人(機関・サービス)」をみたのが図表3-1-3である。「父親」は、就園状況別による差はみられなかったが、低年齢のほうが高年齢に比べて高い比率であり、約9~10ポイントの差がみられた。

他群に比べて高年齢の幼稚園児で高かったのは、「父親・母親の友人」「幼稚園の預かり保育」であった。低年齢よりも、高年齢のほうが父親以外に預けやすいことが考えられる。また、幼稚園児は園で過ごす時間が短いため、どうしても保育園児よりも「父親・母親の友人」「預かり保育」の利用が多くなるといえるだろう。

図表3-1-3 面倒を見てくれる人(機関・サービス)(子どもの年齢区分別・就園状況別 22年)



注1) 複数回答。
 注2) 子どもの面倒を見てくれる人(機関・サービス)が「いる(ある)」と回答した人のみ回答。
 注3) 「父親・母親の友人(パパ友、ママ友)」は、10年調査以降の項目。
 注4) 10年調査までは「祖父母や親戚」→15年調査は「祖父母やあなたのきょうだい、親戚」と項目名を変更した。
 注5) ()内は人数。
 注6) 調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
 低年齢：1歳6か月~3歳11か月の幼児。
 高年齢：4歳0か月~6歳11か月の幼児。

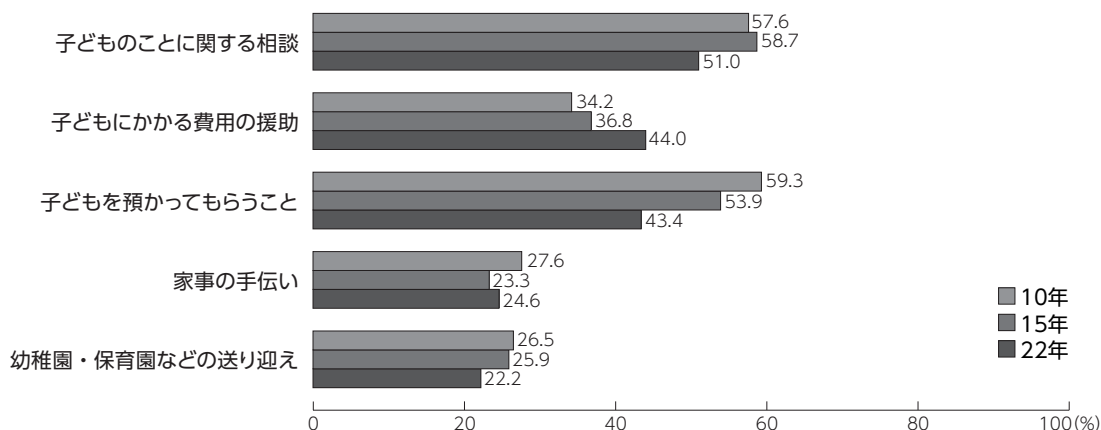
●祖父母への「相談」「預かり」は減り、「費用の援助」は増える

図表3-1-4は、祖父母の援助について経年変化でみたものである。母親を対象に「次のことについて、お子様の祖父母に協力してもらうことはどれくらいありますか。」と5つの項目でたずねた。22年の結果をみると、祖父母に協力してもらっていることは「子どものことに関する相談」「子どもにかかる費用の援助」「子どもを預かってもらうこと」が4～5割の回答比率であった。15年と比較すると、「子どものことに関する相談」は約7ポイント、「子どもを預かってもらうこと」は約10ポイント減少していた。一方で、「子どもにかかる費用の援助」は15年に比べて約7ポイント増えている。コロナ禍で接触を避けることが多かったことから、対面で会う機会が減ることで相談や預かりが減ったのであろう。コロナ禍の失業や物価高騰などの経済不安もあり、対面でのサポートができない代わりに費用の援助が増えたとも考えられる。

●低年齢の未就園児がいる母親は祖父母への「相談」や、「費用の援助をしてもらうこと」が多い

次に、子どもの年齢区分別・就園状況別に「祖父母の援助」に関する項目をみたのが図表3-1-5である。低年齢の未就園児が、「子どものことに関する相談」「費用の援助」への回答比率がもっとも高い。高年齢の就園状況別でみると、幼稚園児をもつ母親の方が保育園児に比べて、「子どものことに関する相談」が多い（高年齢幼稚園児46.6%、高年齢保育園児39.4%）。保育園児の母親は、フルタイムで働いている母親が多いため、祖父母に相談する時間が十分にもてないことも影響しているだろう。

図表3-1-4 祖父母の援助（経年比較）



注1) 祖父母のいる人へのみの回答。
注2) 数値は「よくある」と「ときどきある」の合計。

図表3-1-5 祖父母の援助（子どもの年齢区分別・就園状況別 22年）

	低年齢		高年齢	
	未就園児 (807)	保育園児 (565)	幼稚園児 (1,034)	保育園児 (602)
家事の手伝い	22.6	23.4	21.3	24.1
子どもを預かってもらうこと	40.0	38.7	40.8	41.1
子どものことに関する相談	52.4	46.1	46.6	39.4
子どもにかかる費用の援助	47.3	37.9	39.5	37.2
幼稚園・保育園の送り迎え		21.4	17.6	22.3

注1) 祖父母のいる人へのみの回答。
注2) 数値は「よくある」と「ときどきある」の合計。
注3) 下線は、低年齢の未就園児と保育園児で5ポイント以上差のある項目で最大値。
注4) 網掛けは、高年齢の幼稚園児と保育園児で5ポイント以上差のある項目で最大値。
注5) () 内は人数。



第2節 父親の育児、夫婦の家事・子育て分担

母親の81.7%が、平日の家事について、自分が8割以上分担していると回答している。母親が常勤者の場合、パートタイムや専業主婦よりも父親が家事と子育てを行う比率が高い。子どもの年齢が上がると、就園状況にかかわらず、母親が家事と子育てを担う比率が高い。

●母親の81.7%が、平日の家事について、自分が8割以上分担していると回答

ここでは、家事や子育てにおける夫婦の分担についてみていこう。配偶者のいる母親に対して、平日と休日の家事と子育てについて、分担の割合をたずねた(図表3-2-1)。

母親が10割、つまりすべて担っていると回答した比率は、「平日の家事」で48.5%、「平日の子育て」で36.7%、「休日の家事」で25.2%、「休日の子育て」で9.9%だった。平日は約半数の母親が家事をすべて担っており、4割弱の母親が子育てをすべて担っている状態だった。

母親が8割以上分担していると回答した比率をみると、「平日の家事」で81.7%、「平日の子育て」で79.4%、「休日の家事」で59.4%、「休日の子育て」で36.1%だった。平日の家事と子育てを母親が多く担っており、休日に父親も家事と子育てにかかわっている傾向がみられた。

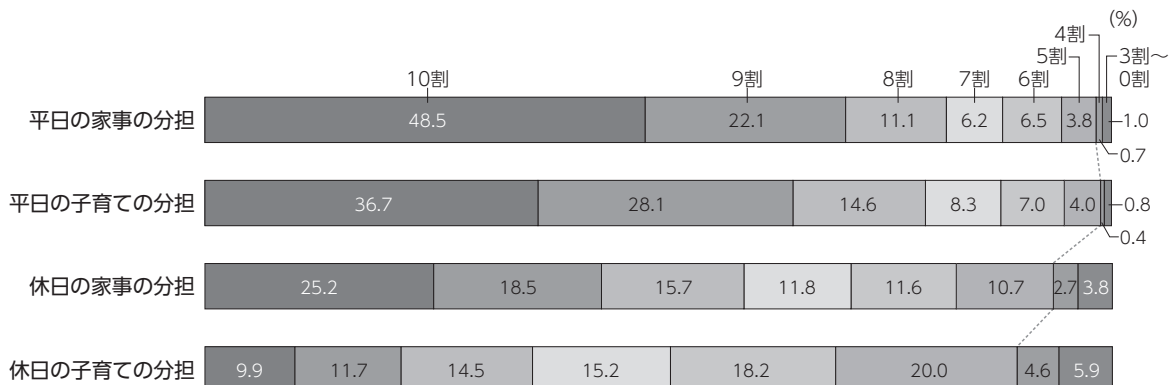
●母親が常勤者である場合、パートタイムや専業主婦よりも父親が家事と子育てを行う比率が高い

つづいて、母親の就業状況別に、家事と子育ての分担についてみていきたい(図表3-2-2)。

母親が8割以上分担していると回答した比率をみると、常勤者の場合、「平日の家事」は62.9%と6割台だった。「平日の子育て」は59.7%、「休日の家事」で45.6%、「休日の子育て」で31.4%だった。パートタイムの場合、「平日の家事」で80.7%、「平日の子育て」で76.3%と約8割だった。「休日の家事」で59.5%、「休日の子育て」で36.9%だった。専業主婦の場合、「平日の家事」で90.9%、「平日の子育て」で90.0%と9割台になっていた。「休日の家事」で65.9%、「休日の子育て」で38.0%だった。母親が常勤者であるほうが、パートタイムや専業主婦よりも父親が家事と子育てを行う比率が高い傾向がみられた。

とくに、平日の家事と子育てを8割以上行うと回答した比率は、常勤者が6割台であるのに対して、パートタイムではおよそ8割、専業主婦では9割と差がみられた。また、休日の家事を8割以上行うと回答した割合については常勤者が4割台であるのに対して、専業主婦とパートタイムが約6割という差がみられる結果だった。

図表3-2-1 夫婦の家事・子育て分担 (22年)



注1) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注2) 子どもの年齢は、0歳6か月以上のデータ。
 注3) 図では、「母10割父0割」を「10割」、「母9割父1割」を「9割」、「母0割父10割」を「0割」と表示している。

●子どもの年齢が上がると、母親が家事と子育てを担う比率が高くなる

子どもの年齢と就園状況により、夫婦の分担は異なるのだろうか。子どもの年齢区分別・就園状況別に、平日と休日の家事と子育ての分担をみていきたい(図表3-2-3)。

まず、子どもの就園状況別にみると、母親の就業別と同様に、子どもが保育園に通っている場合のほうが、父親が家事と子育てを行う比率が高かった。

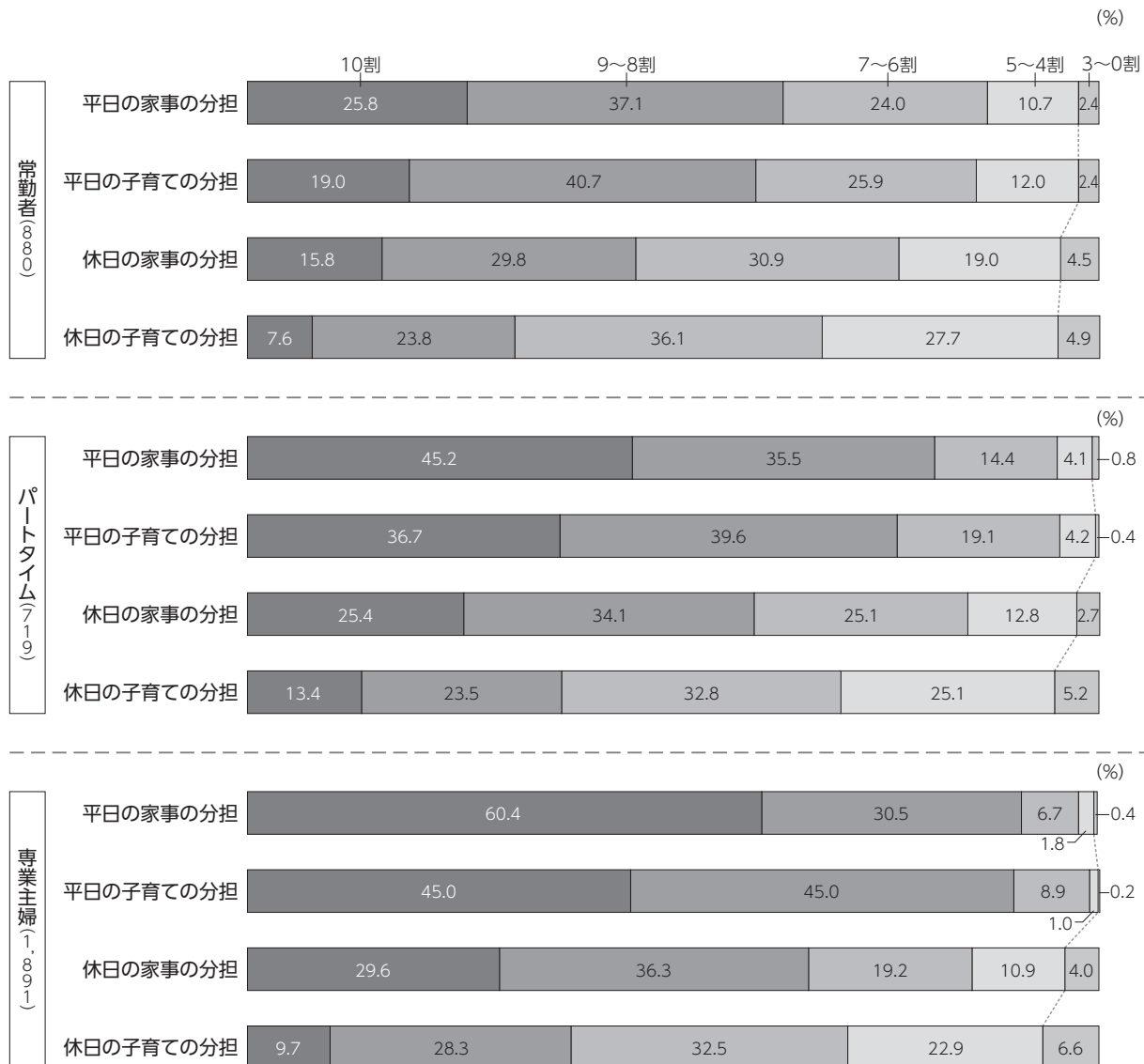
次に、子どもの年齢区分でみてみよう。0歳6か月～1歳5か月の未就園児と、1歳6か月～3歳11か月の未就園児を比べた。母親が10割分担していると回答した比率をみると、「平日の家事」について、0歳6か月～1歳5か月では45.2%、1歳6か月～3歳11か月で

は57.6%と12.4ポイント多い。「平日の子育て」について、0歳6か月～1歳5か月では32.2%、1歳6か月～3歳11か月では42.8%と10.6ポイント多い。

一方、「休日の家事」については、0歳6か月～1歳5か月では19.0%、1歳6か月～3歳11か月では26.6%であり、「休日の子育て」については、0歳6か月～1歳5か月では6.7%、1歳6か月～3歳11か月では9.1%であった。

つづいて、1歳6か月～3歳11か月の保育園児と4歳0か月～6歳11か月の保育園児を比べた。母親が10割分担していると回答した比率をみると、「平日の家事」について、1歳6か月～3歳11か月では29.4%、4歳0か月～6歳11か月では33.9%であった。「平日の子育て」について、1歳6か月～3歳11か月では21.2%、4歳0か月～6歳11か月では24.6%である。また、「休

図表3-2-2 夫婦の家事・子育て分担(母親就業状況別 22年)



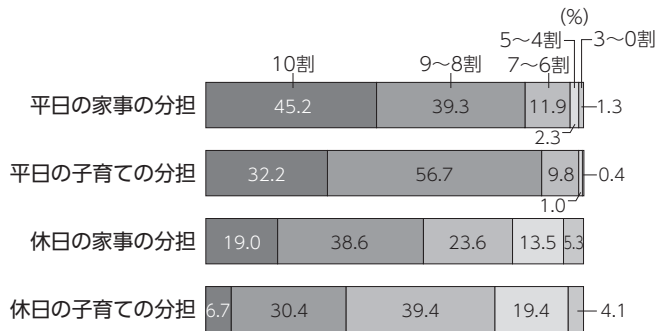
注1) 配偶者がいる母親のみ回答。
 注2) 子どもの年齢は、0歳6か月以上のデータ。
 注3) 図では、「母10割父0割」を「10割」、「母9割父1割」と「母8割父2割」を合わせて「9~8割」と表示している。

日の家事」については、1歳6か月～3歳11か月では15.9%、4歳0か月～6歳11か月では21.7%と約6ポイント高い。「休日の子育て」については、1歳6か月～3歳11か月では6.7%、4歳0か月～6歳11か月で

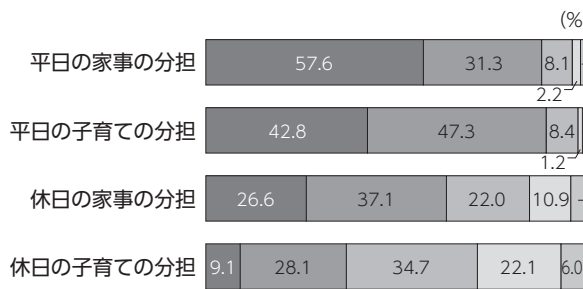
は11.3%と約5ポイント高かった。平日は年齢によってあまり変わらないが、休日は年齢が上がるほど母親の家事や子育て分担が10割と回答した比率が高くなっている。

図表3-2-3 夫婦の家事・子育て分担 (年齢区分別 就園状況別 22年)

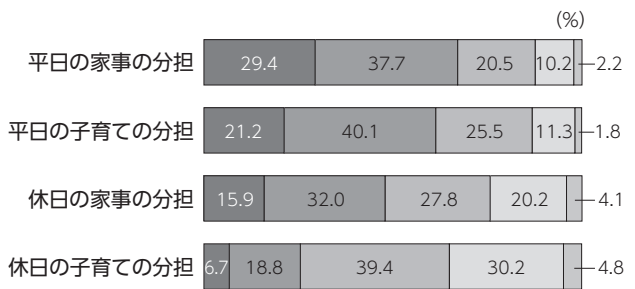
0歳6か月～1歳5か月(未就園児)



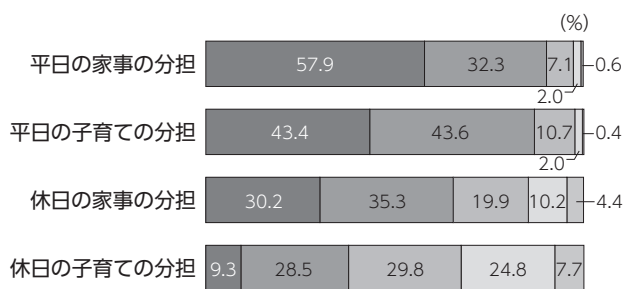
1歳6か月～3歳11か月(未就園児)



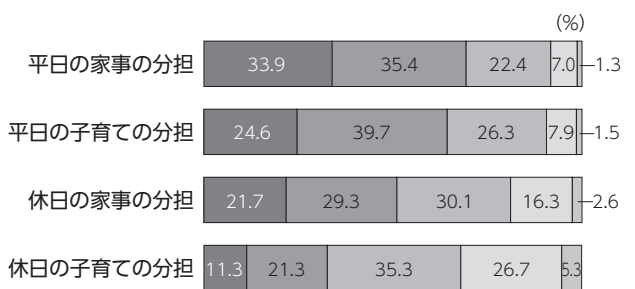
1歳6か月～3歳11か月(保育園児)



4歳0か月～6歳11か月(幼稚園児)



4歳0か月～6歳11か月(保育園児)



注1) 配偶者がいる母親のみ回答。

注2) 子どもの年齢は、0歳6か月以上のデータ。

注3) 図では、「母10割父0割」を「10割」、「母9割父1割」と「母8割父2割」を合わせて「9~8割」と表示している。